

「日々の理科」(第1598号) 2018 (H30), 11, 23

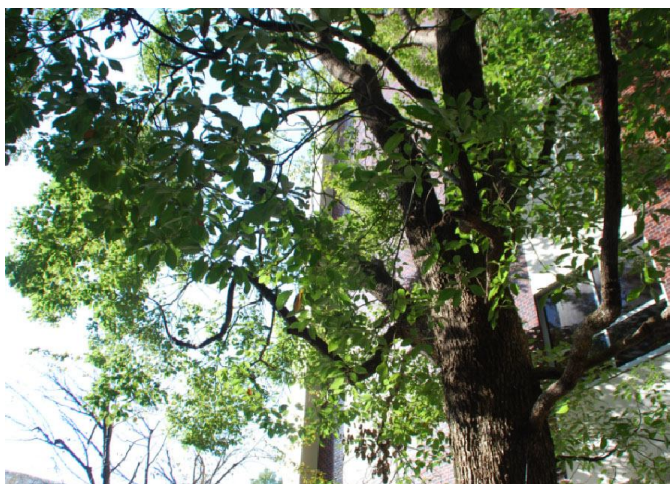
「クスノキの葉」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

カツラの落葉は甘い香りがするが、匂いのする葉は、ほかにもたくさんある。柑橘類の葉は、切り口から独特の香りがする。実はあの香りで、アゲハの幼虫の天敵である肉食のハチを誘引しているという。



クスノキの葉も匂いが強いものの一つだろう。常緑高木のクスノキは葉の密度が大きく、防音効果から、街路樹にも使われる。実は今の時期に果実も見られるのだが、この日は果実ではなく、葉のほうを観察した。



クスノキの葉の匂いの正体は、樟脳 $C_{10}H_{16}O$ である。少し前までは、防虫剤の代表格だったが、今はあまり見なくなった。しかし今でも国内で生産されていて入手可能だ。樟脳は、クスノキの枝や葉を蒸留精製後、固形物に成形して作られる。融点は $180^{\circ}C$ だが、常温でも容易に昇華し、気体として防虫効果がある。



大学構内にもクスノキが何本かある。有難いことに、子どもでも手が届く高さに枝があり、自身で葉を採取することができる。すばらしい観察環境だ。



これがクスノキの葉。いかにも常緑広葉樹という感じで表面にツヤがある。さすがに防虫剤の原料だけに、ほとんど虫に食われたあとがない。(実はダニの一種が虫こぶを作ることが多い)



葉の根元(葉柄)や、切り口に鼻を近づけると、強烈な匂いがする。葉をもむと、指にもその匂いが残る。実は「クスノキ」の語源は、「臭の木(くす・の・き)」または「薬の木(くす・の・き)」だという。いずれも正しいような気がする。